

# 上宮寺通信

第七十六号

## 御朱印 — 仏縁を結ぶ —

御朱印ブームということもあり、秋の旅行シーズンに各地の神社仏閣巡りをされたという方も多いと思います。

最近は一とくちに御朱印といっても様々で、仏様や花などの絵が描いてあるのや漫画風のイラストが描いてあるものもあり、人気のある御朱印には行列がでるところもあります。

そもそも御朱印というのは江戸時代に盛んになった風習で、亡き人の追善供養のために写経をして寺に納める(納経)時の受取書が起源であるといわれています。

現代ではその意味合いは薄れ、参拝して縁を結んだ証とし

て多くの神社仏閣で書かれるようになってきました。

しかし浄土真宗(特に東西本願寺)では御朱印を書いていないというお寺が多いのはご存じでしょうか。

御朱印の起源にあるような亡き人の追善供養のために納経をするということ浄土真宗では行っていない。「ただ念仏」といわれるようにお念仏一つでいいといわれ、そのお念仏も亡き人の追善供養のために称えるものではないといわれたのが親鸞聖人です。そのことから御朱印を出していないという歴史があるのです(ただ参拝記念として御朱印のようなものを出していた寺院はあります)。

とはいっても、いろいろな寺院をお参りして御朱印を集めることは楽しいことでもありません。しかし、ともすると御朱印を集めることに重きが置かれ、本来の仏縁に出会うということが疎かになってしまつては本末転倒です。

せっかくお寺を訪れたのにお参りすることなく寺務所で御朱印だけもらつて帰る参拝客もいるとかいないとか。

仏縁に出会うということは、わが身を見つめさせていただくということ。貪欲(むさぼり)、瞋恚(いかり)、愚痴(おろかさ)の三毒にあらわされる煩惱いっぱいの人たちが何を振り所として生きていけばいいのか、そのことを明らかにしていくのがお参りの根本になければ

なりません。

御朱印を集めることだけに満足せずに、それをきっかけに仏様の教えを少し学んでみる。それでこそ仏様と縁を結んだ証である御朱印の意味があるといえます。

※上宮寺は浄土真宗のお寺ですので、御朱印を出していません。悪しからず。



◆行事案内

修正会

1月1日(元旦・水)

午後2時～

※ご参詣の皆様と『正信偈』のおつとめをします。おつとめの後、恒例のビンゴ大会を行います。

年の初めにぜひお寺にお参りください。



名古屋別院 報恩講  
12月13日(金)～18日(水)

◆話題あれこれ

○11月8日の報恩講の日はこの秋一番に冷え込んだ日でしたが、多くの方にお参りをいただきありがとうございました。コロナ禍で休止していた近隣のご寺院様にも出仕いただき、とても賑々しくおつとめができました。

○報恩講にて能登半島地震、能登半島豪雨の救援金の募金呼びかけましたところ、5038円の尊いお気持ちをしていただきました。東本願寺を通して被災地へ送らせていただきます。

○11月21日の東本願寺報恩講団体参拝にも多くの方のご参加をいただきありがとうございました。

○13日から始まる名古屋別院(東別院)の報恩講には、13日午後と15日午後の法要に出仕、14日午前と18日午前の法要に楽僧として出仕、17日夜にリレー法話の担当とほぼ毎日、別院に行きます(住職予定)。皆様もご都合つきましたら、ぜひお参りください。

○はやいもので今年も最後の月になってしまいました。なにかと忙しいですが、体調に気を付けて良い年をお迎えください。

○ホームページ、公式LINEもよろしく願います。

【雑感】

東本願寺の報恩講に参勤するため京都へ行ってきました。報恩講を終え、少し時間があつたので京都国立博物館へ。ちょうど「法然と極楽浄土」展が開かれていて、親鸞聖人の師である法然上人ゆかりの法宝物を観ることができました。この展示会にあわせていろいろなグッズが販売されていたのですが、その中に風呂桶や手ぬぐいなどお風呂グッズが売っていたのです。お風呂に入ると「あく極楽、極楽」といつい出してしまう言葉にひっかけてだと思つたのですが、そのセンスに思わず笑ってしまいました。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和三十九年一丁目十九番十五号

☎052-871-0547



ホームページ



公式LINE